

# 技術情報

J A 全農やまぐち  
営農推進部 TAC・営農推進課  
(083-988-0681)  
平成 24 年 9 月 4 日 発行  
第 167 号

## ダイズの吸実性カメムシの防除対策

9月3日付けで病害虫防除所から技術資料が発表され、ダイズの吸実性カメムシ類の発生が「やや多」と予想されています。

つきましては、カメムシ類の重要な防除時期ですので、下記及び「発生予察技術資料第6号」を参考に、確実に防除が実施されるよう、ご指導をお願いします。

記

### 1 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 やや多

### 2 防除対策

- (1) 防除時期
  - ① 一回目：莢伸長期（開花期後 30 日頃）
  - ② 二回目：子実肥大期（開花期後 45～50 日頃）

詳細については防除所発表の発生予察技術資料第6号を参照してください。

### (2) 防除薬剤

別表のとおり

### 2 留意事項

- (1) カメムシ類による被害は吸汁による収量、品質の低下のほか、被害の大きい株は青立ちし収穫時に汚損粒を発生します。
- (2) 圃場への侵入、増殖が長期にわたるため、**2回の防除を徹底してください**。特に9月以降密度が急増することが多いため、今後の防除は重要です。
- (3) ハスモンヨトウは9月3日防除所発表の予報ではやや少の発生となっていますが、1アール当たりの白変被害葉が5箇所を超える圃場では、カメムシ類との同時防除を行いましょう。

別表 大豆吸実性カメムシ類の防除薬剤

平成24年9月4日現在

商品名	成分	適用病害虫		使用倍率 / 使用量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分を含む 薬剤の 総使用回数
		カメムシ 類	ハスモ ンヨトウ				
スタークル粉剤DL(普)(A)	ジノテフラン0.5%	○		3kg/10a	7日前まで	2回以内	3回以内(但し散布は 2回以内)
ダントツ粉剤DL(普)(A)	クロチアニジン0.15%	○		4kg/10a	7日前まで	3回以内	4回以内(但し散布は 3回以内)
キラップ粉剤DL(普)(A)	エチプロール0.5%	○		3kg/10a	7日前まで	2回以内	2回以内
トレボン粉剤DL(普)(B)	エトフェンプロックス0.5%	○	○	4kg/10a	14日前まで	2回以内	2回以内
Mr.ジョーカー粉剤DL(普)(A)	シラフルオフェン0.5%	○		4kg/10a	7日前まで	2回以内	2回以内
エルサン粉剤3DL(普)(Bs)	PAP3%	○	○	3~4kg/10a 4kg/10a	7日前まで	2回以内	2回以内
スミチオン粉剤3DL(普)(B)	MEP3%	○		4kg/10a	21日前まで	4回以内	4回以内
スミトップM粉剤(普)(B、A)	MEP3% チオファネートメチル2%	○		3~4kg/10a	開花期~若 莢期但し収穫 21日前まで	4回以内	4回以内
スミチオンバルクート粉剤DL(普) (B、A)	MEP3%、イミノクタンジ ンアルベシル酸塩2%	○		3kg/10a		4回以内	4回以内
マネージトレボン粉剤DL (普) (B、B)	エトフェンプロックス0.5% イベンコナゾール 0.75	○	○	3~4kg/10a 4kg/10a	30日前まで	2回以内	2回以内
スタークル顆粒水溶剤(普)(A)	ジノテフラン20%	○		2000倍	7日前まで	2回以内	3回以内(但し散布は 2回以内)
ダントツ水溶剤(普)(A)	クロチアニジン16%	○		2000~4000倍	7日前まで	3回以内	4回以内(但し散布は 3回以内)
キラップフロアブル(普)(A)	エチプロール10%	○		2000倍	7日前まで	2回以内	2回以内
トレボン乳剤(普)(B)	エトフェンプロックス20%	○	○	1000倍	14日前まで	2回以内	2回以内
アグロスリン乳剤(劇)(C)	シベルメリン6%	○		2000倍	7日前まで	3回以内	3回以内
エルサン乳剤(劇)(Bs)	PAP50%	○	○	1000倍	7日前まで	2回以内	2回以内
スミチオン乳剤(普)(B)	MEP50%	○		1000倍	21日前まで	4回以内	4回以内

(注) スミトップM粉剤、スミチオンバルクート粉剤DL及びマネージトレボン粉剤DLは紫斑病にも適用がある。

# 平成24年度農作物病害虫発生予察技術資料第6号

平成24年(2012年)9月3日  
山口県病害虫防除所

## ダイズの吸実性カメムシ類の発生と防除対策

吸実性カメムシ類の発生が増加しているため、今後、ダイズの被害が発生することが予想されます。

については、以下のとおり防除対策の徹底をお願いします。

### 1 発生状況

- (1) 8月下旬のダイズの巡回調査(払い落とし調査)では、発生ほ場率47.6%(平成42.0%)、1㎡当たり虫数0.32頭(平成0.21頭)で平年に比べやや多かった。また、一部で多発ほ場が認められ、優占種はホソヘリカメムシであった(図)。
- (2) 7月6半旬～8月5半旬の予察灯調査(県内4か所)では、イチモンジカメムシの誘殺数19頭(平成4.4頭)で平年に比べ多かった。

### 2 今後の予想

- (1) 対象地域 県内全域
- (2) 発生量 やや多
- (3) 予想内容 8月下旬の発生量が平年に比べやや多いことから、今後も吸実性カメムシ類の発生が多く推移し、子実の被害が多くなるおそれがある。

### 3 防除対策

- (1) 6月に播種したほ場  
莢伸長期(開花期後30日頃)の防除を実施していない場合は遅れないように防除を実施する。さらに、子実肥大期(開花期後45～50日頃)の防除を必ず実施する。
- (2) 7月に播種したほ場  
莢伸長期(開花期後30日頃)及び子実肥大期(開花期後45～50日頃)の防除を実施する。

表 本年の防除時期の目安(山口市大内 品種;サチユタカ)

播種月日	開花期	防除時期	
		莢伸長期 (開花期後30日頃)	子実肥大期 (開花期後45～50日頃)
6月14日	7月28日	(8月27日頃)	9月11日～16日頃
7月9日	8月16日	9月15日頃	9月30日～10月5日頃

### 4 防除上注意すべき事項

防除の際はダイズの莢に薬剤が十分かかるよう散布する。

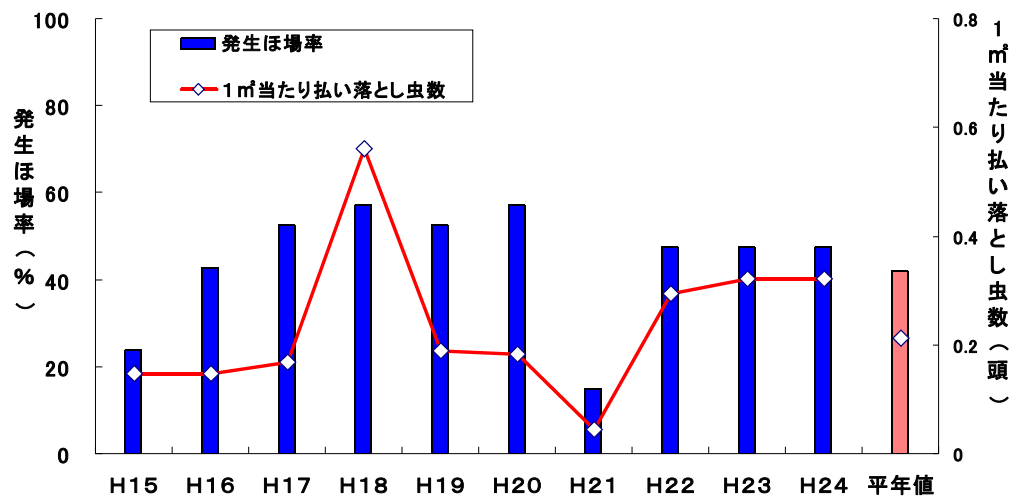


図 吸実性カメムシ類の年度別発生量



ホソヘリカメムシ (成虫)



ホソヘリカメムシ (幼虫)



イチモンジカメムシ (成虫)



カメムシ類によるダイズ被害粒